

北見工業大学学報

第 275 号 (2016 年 5 月号)

目 次

入 学 式	平成 28 年度入学式を挙行……………	2
告 辞	平成 28 年度入学式告辞……………	3
入 試	平成 29 年度編入学学生募集要項の公表……………	5
	平成 29 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表……………	6
研 究 助 成	平成 28 年度科学研究費助成事業内定一覧……………	9
	平成 28 年度共同研究の受入状況……………	12
	平成 28 年度受託研究の受入状況……………	14
	平成 28 年度奨学寄附金の受入状況……………	15
諸 報	北海道ガス(株)との包括連携協定締結について……………	16
	平成 28 年度 技術セミナー(技術士養成支援講座)を開講……………	17
	北見市立中央図書館との連携……………	18
	北見市産学官連携推進協議会総会……………	19
	文献検索講習会を実施……………	20
	平成 28 年度構内美化作業を開始……………	21
	障がい学生支援に係る講演会を開催……………	22
	北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会を開催……………	23
	平成 28 年度第 1 回技術セミナー(CPD 認定プログラム)を開催……………	24
日 誌	4 月・5 月……………	25

= 入学式 =

平成 28 年度入学式を挙

(総務課)

4月6日(水)、平成28年度入学式が午前10時から北見市民会館で行われました。学部427人、学部編入学3人、大学院博士前期課程95人及び大学院博士後期課程5人に対して、高橋信夫学長が入学許可した後、学長告辞を行い、続いて辻直孝北見市長、倉本登大学後援会副会長、富田剛夫同

窓会北見支部長・学生後援会会長から祝辞がありました。

さらに、入学生を代表して、機械・社会環境系の宮家和希さんから、今後の誓いを込めた力強い宣誓があり、式は無事終了しました。

なお、入学者数は次のとおりです。

学 部

系列名	入学者数(人)
機械・社会環境系	171
情報電気エレクトロニクス系	150
バイオ環境・マテリアル系	106
合計	427

学部編入学

学科名	入学者数(人)
機械工学科	1
電気電子工学科	1
情報システム工学科	1
合計	3

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械工学専攻	24
社会環境工学専攻	16
電気電子工学専攻	14
情報システム工学専攻	13
バイオ環境化学専攻	10
マテリアル工学専攻	18
合計	95

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	4
医療工学専攻	1
合計	5



入学生代表宣誓

= 告辞 =

平成 28 年度入学式告辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
ます。

北見工業大学の教職員、学生を代表いたしまして、私たちの大学の一員となった皆さんの入学を心から歓迎いたします。

そして、これまで皆さんを育て、温かく見守って来られたご家族、保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

本日はご多用にもかかわらず、北見市長の辻様、大学後援会副会長の倉本様、そして同窓会北見支部長及び学生後援会会長の富田様にご臨席を賜り、入学式を挙げていきますことに感謝申し上げます。

今年度は学部にて 430 人、大学院博士前期課程に 95 人、博士後期課程には 5 人が入学されました。その中には 17 人の海外からの留学生が含まれます。

さて、入学生さんの皆さんが学生生活を営むことになるこの北見市の周辺には、世界自然遺産に登録された「知床国立公園」をはじめとして四つの国立公園があります。北見市は、このような豊かな自然環境にあるオホーツク地域の中核都市で、晴天の日が多い爽やかな土地です。本学は、そのような自然環境に恵まれた北見市に 1960 年に設立された工学部だけの単科大学で、「自然と調和するテクノロジーの発展を目指して」の標語を掲げ、特色ある教育・研究を進めております。地方の国立大学である本学は、これからの教育・研究面において、本学としての特色をこれまで以上に明確にする必要があります。そのような状況下、今申しあげました標語「自然と調和するテクノロジーの発展を目指して」は、本学にとって今後益々重要なものになると思っております。

おります。

この場で改めて申し上げるまでもありませんが、大学の最も重要な役割は学生の教育です。

学部に入學された 430 人の皆さんは、小学校・中学校の義務教育、そして高等学校での教育を経て北見工業大学に入學しました。高等学校での教育は義務教育ではありませんが、皆さんは大学受験という圧力の下、多くのことを「覚える」ことに集中してきたことと思います。これから北見工業大学における勉強がいよいよ始まります。皆さんは教室で先生から講義を受ける、そこまでは高校と変わりませんが、問題は皆さんがその内容に取り組む姿勢です。これまでのように、その中身を「覚える」のに集中するのではなく、大学ではこれまで以上に「自分なりに考えて」中身を理解することが求められることとなります。受身ではなく自分から取り組む姿勢が必要になる、そのところをよく理解してください。そしてしっかりと勉強して、工学についての基礎学力を確実に身につけるとともに、主体的に問題を解決できる能力を身につけてください。本学の教育・研究環境は十分に恵まれた状況にあると認識しております。皆さんには本学の施設・設備を十分に活用して勉學に励み、多くの知識を身につけていただきたいと思っております。

大学院博士前期課程に入學された 95 人の皆さんは、これまでの学部における経験、特に 4 年次における卒業研究を通じて、先ほど学部入學生に対して申し上げたことは十分にご理解いただけるものと思っております。皆さんには学部で修得した知識を基盤とし

て、さらに応用開発に展開できる実践的な能力を身につけていただきたいと思います。

博士後期課程には5人が入学されました。皆さんには専門分野の学術研究を積極的に推進することはもちろん、その過程で専門分野以外についても幅広い視野を培っていただきたいと思います。そして、科学技術立国を標榜する我が国において技術集団の核となり、次の時代を切り拓く人材となることを期待しています。

さて、大学という場所は当然のこと、本来の学業にしっかりと取り組む場所ですが、それに加えて様々な観点において人間的に大きく成長するための場所でもあります。本学において過ごす時間は、皆さんにとって大変貴重な時間です。時間を有効に使うとともに多くのことにチャレンジして、自分を大きくするよう取り組んでいただきたいと思います。皆さんがこのような貴重な時間を持てるのも、ご家族のご理解とご支援があつてのことです。周りの方々への「感

謝の気持ち」を忘れることなく過ごしていただきたいと思います。

各種報道等でご存知の方も多いと思いますが、国立大学が法人化されて以降、各大学はそれぞれが得意とする機能を強化して、しっかりと世の中にその存在価値を示していく必要があります。このような状況下、本学はこれからも多くのことにチャレンジしながら皆さんと一緒に成長していく大学です。皆さんもこの大学の一員になられたことを自覚して、教職員共々、北見工業大学のさらなる発展を目指して一緒に行動していただければと思っています。

結びになりますが、入学生の皆様にはまずは健康に注意して、充実した学生生活を送っていただきたいと思います。そして、皆さんがこの北見の地での様々な体験を通じて、学業面ばかりでなく人間的にも大きく成長してくれることを心から願って、歓迎の挨拶といたします。

改めまして、入学おめでとうございます。

平成28年4月6日
北見工業大学長 高橋 信夫



= 入 試 =

平成 29 年度編入学学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 29 年度編入学学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

選 抜 の 種 類	推薦入試・学力試験入試・社会人特別入試	
学 科 及 び 募 集 人 員	工学部全学科 推薦入試 10 人 学力試験入試及び社会人特別入試 若干人	
出 願 資 格	<p>推薦入試</p> <p>(1) 高等専門学校・理工系の短期大学を平成 29 年 3 月卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 29 年 9 月卒業見込みの者)</p> <p>(2) 学校教育法第 132 条に規定する専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時数が 1,700 時間以上であるものに限る。）を平成 29 年 3 月修了見込みの者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。）</p> <p>(3) 学校教育法第 58 条第 2 項に規定する高等学校の専攻科の課程（修業年限が 2 年以上で、かつ、文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を平成 29 年 3 月修了見込みの者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。）</p> <p>学力試験入試</p> <p>(1) 大学を卒業した者又は平成 29 年 3 月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定に基づき、大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は平成 29 年 3 月までに授与される見込みの者</p> <p>(3) 高等専門学校・短期大学を卒業した者又は平成 29 年 3 月までに卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 29 年 9 月卒業見込みの者) 等</p> <p>社会人特別入試</p> <p>入学時において企業等に正規の職員として 2 年以上在職中で、在職のまま入学することができ、所属長からの推薦がある者で、次のいずれかに該当するもの</p> <p>(1) 理工系の高等専門学校を卒業した者</p> <p>(2) 理工系の短期大学を卒業した者</p> <p>(3) 大学・学部の理工系学科を卒業した者又は大学・学部の理工系学科に 2 年以上在学し、62 単位以上を修得し退学した者</p>	
出 願 期 間	推薦入試・社会人特別入試	5 月 6 日（金）～5 月 12 日（木）
	学力試験入試	6 月 1 日（水）～6 月 7 日（火）
試 験 日	推薦入試・社会人特別入試	5 月 25 日（水）（面接）
	学力試験入試	6 月 22 日（水）
合 格 発 表	推薦入試・社会人特別入試	6 月 1 日（水）
	学力試験入試	7 月 13 日（水）

平成 29 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 29 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。
また、平成 28 年度大学院秋季入学の学生募集要項も同時に公表され、平成 29 年度入試の第 1 回募集と
同一日程で実施されます。

平成 29 年度大学院工学研究科博士課程

	博士前期課程	博士後期課程																																									
専 攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻																																									
選 抜 の 種 類	一般入試（学力試験入試・推薦入試） 学部 3 年次学生対象入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試 高等専門学校専攻科生特別入試	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試																																									
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般入試 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2" style="text-align: center;">第 1 回</th> <th style="text-align: center;">第 2 回</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">学力 試験</th> <th style="text-align: center;">推薦 入試</th> <th style="text-align: center;">学力 試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械工学専攻</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">各 専 攻 と も 若 干 人</td> </tr> <tr> <td>社会環境工学専攻</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>電気電子工学専攻</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>情報システム工学専攻</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td>バイオ環境化学専攻</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> <tr> <td>マテリアル工学専攻</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">56</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部 3 年次学生対象入試 各専攻とも若干人 ・ 社会人特別入試 各専攻とも若干人 ・ 外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人 ・ 高等専門学校専攻科生特別入試 各専攻とも若干人 		第 1 回		第 2 回	学力 試験	推薦 入試	学力 試験	機械工学専攻	11	11	各 専 攻 と も 若 干 人	社会環境工学専攻	10	10	電気電子工学専攻	10	10	情報システム工学専攻	8	8	バイオ環境化学専攻	9	9	マテリアル工学専攻	8	8	計	56	56	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般入試 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">第 1 回</th> <th style="text-align: center;">第 2 回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生産基盤工学専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">若 干 人 各 専 攻 と も</td> </tr> <tr> <td>寒冷地・環境・ エネルギー工学専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>医療工学専攻</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人入試 各専攻とも若干人 ・ 外国人留学生入試 各専攻とも若干人 		第 1 回	第 2 回	生産基盤工学専攻	3	若 干 人 各 専 攻 と も	寒冷地・環境・ エネルギー工学専攻	3	医療工学専攻	2	計	8
	第 1 回		第 2 回																																								
	学力 試験	推薦 入試	学力 試験																																								
機械工学専攻	11	11	各 専 攻 と も 若 干 人																																								
社会環境工学専攻	10	10																																									
電気電子工学専攻	10	10																																									
情報システム工学専攻	8	8																																									
バイオ環境化学専攻	9	9																																									
マテリアル工学専攻	8	8																																									
計	56	56																																									
	第 1 回	第 2 回																																									
生産基盤工学専攻	3	若 干 人 各 専 攻 と も																																									
寒冷地・環境・ エネルギー工学専攻	3																																										
医療工学専攻	2																																										
計	8																																										
出願資格	大学を卒業した者又は平成 29 年 3 月までに卒業見込みの者 等	修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は平成 29 年 3 月までに授与される見込みの者 等																																									

出願期間	第1回募集 平成28年6月13日(月)～6月23日(木) (推薦入試の併願を希望する者 平成28年6月6日(月)～6月10日(金)) (出願資格の事前審査 平成28年5月16日(月)～5月20日(金)) 第2回募集 平成29年1月16日(月)～1月20日(金) (出願資格の事前審査 平成28年11月22日(火)～11月29日(火))	
試験日	第1回募集 学力試験 学力検査 平成28年8月22日(月) 面接試験 平成28年8月23日(火) 推薦入試 面接試験 平成28年6月29日(水) 第2回募集 学力試験 平成29年2月7日(火) 面接試験 平成29年2月8日(水)	第1回募集 面接試験 平成28年8月24日(水) 第2回募集 面接試験 平成29年2月7日(火)
合格発表	第1回募集 平成28年9月7日(水) ※推薦入試選考結果通知 平成28年7月13日(水) 第2回募集 平成29年2月15日(水)	第1回募集 平成28年9月7日(水) 第2回募集 平成29年2月15日(水)

平成28年度大学院工学研究科博士課程(秋季入学)

	博士前期課程	博士後期課程
専攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻
選抜の種類	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試 各専攻とも若干人 ・社会人特別入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試 各専攻とも若干人 ・社会人入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生入試 各専攻とも若干人

出願資格	大学を卒業した者又は平成28年9月までに卒業見込みの者 等	修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は平成28年9月までに授与される見込みの者 等
出願期間	平成28年6月13日(月)～6月23日(木) (出願資格の事前審査 平成28年5月16日(月)～5月20日(金))	
試験日	学力検査 平成28年8月22日(月) 面接試験 平成28年8月23日(火)	面接試験 平成28年8月24日(水)
合格発表	平成28年9月7日(水)	平成28年9月7日(水)

平成28年度科学研究費助成事業内定一覧

○基盤研究(B)一般

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	教授	山下 聡	オホーツク海網走沖ガスハイドレートの資源ポテンシャルと環境・災害インパクト	3,510		○
社会環境工学科	教授	川村 彰	MMS計測点群を直接利用した超写実VR環境の生成と感性情報に基づく走行路面評価	2,080		○
情報システム工学科	准教授	榭井 文人	カーリングを科学する～情報機械技術を統合した新たな戦術支援の試み	2,470		○
バイオ環境化学科	教授	齋藤 徹	界面分離型薬物捕捉場の創成と医療排水処理への適用	5,070		○
電気電子工学科	教授	田村 淳二	大規模ウインドファームを有する電力系統の総合的安定化	1,950		○
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	節腹連続河道の形成機構の解明	6,760		○
マテリアル工学科	教授	川村 みどり	高安定銀薄膜の実用化を目指した光学特性評価	13,130	○	
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	三相界面構造の最適化によるガスハイドレート生成速度の大幅増加に関する研究	6,630	○	

○基盤研究(B)海外

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
環境エネルギー研究推進センター	教授	八久保 晶弘	サハリン島西方沖タートルトラフの天然ガスハイドレート生成環境の解明	2,080		○
社会環境工学科	助教	大野 浩	地下水コア解析によるアラスカ永久凍土域の環境動態解明－氷床コア研究法を応用して－	4,290	○	
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	バイカル湖最古堆積物域に発現するメタンハイドレートの多様性と生成機構の解明	1,820	○	

○基盤研究(C)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	准教授	三戸 陽一	壁乱流内粒子分散機構の解明と予測の高度化	650		○
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	冬季オリンピックでのメダル獲得を目標とする競技用スキーブーツの開発	910		○
電気電子工学科	教授	柏 達也	760MHz帯を用いた交差点自動車衝突防止システムの開発に関する研究	1,430		○
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	寒冷地における埋設管のリスク評価	1,300		○
マテリアル工学科	助教	坂上 寛敏	ガスハイドレート生成に伴う包接炭化水素分子の安定同位体分別過程の解明	1,300		○
社会環境工学科	准教授	駒井 克昭	寒冷地固有の物質情報を利用した流域の環境動態解析の高度化	1,560		○
電気電子工学科	准教授	川村 武	UHF帯RF-IDによる車線の情報化と暴風雪悪視界下のナビゲーションシステム	1,300		○
情報システム工学科	教授	三浦 則明	地表層補償光学に基づく超広視野太陽像回復の効果	910		○
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	多色変化型糖センサーアレイの高機能化と多検体同時検出システムへの展開	1,950		○
バイオ環境化学科	教授	吉田 孝	抗ウイルス性硫酸化糖鎖の生理活性作用メカニズムの解明	1,430		○
電気電子工学科	准教授	武山 眞弓	3D及び2.5D-ICに適用可能なバリアレス絶縁膜の低温作製	1,690		○
電気電子工学科	教授	谷本 洋	確率的フラッシュAD変換器の試作と設計手法の確立	1,820		○
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	構造全体系サーモグラフィと高密度モード同定によるハイブリッド損傷同定手法の開発	1,560		○

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
情報システム工学科	准教授	原田 建治	コロナ帯電を用いたソーダライムガラスへのホログラム記録の最適化とその応用	910		○
機器分析センター	准教授	大津 直史	人工関節予後不良を低減する難剥離性極薄Ag含有アパタイト被膜のワンステップ形成	2,210		○
社会環境工学科	准教授	白川 龍生	積雪の断熱効果を利用した温度差発電システムの開発とエネルギーの地産地消	1,430		○
バイオ環境化学科	准教授	佐藤 利次	RNAi法等によるシイタケ・ラッカーゼの生理的機能及び遺伝子発現メカニズムの解明	780		○
情報システム工学科	准教授	早川 吉彦	統計的画像処理法と圧縮センシングによるコーンビーム型X線CT画像の高画質な再構成	1,170		○
情報システム工学科	教授	前田 康成	空間的分析と時間的制御を融合した、次世代商品推薦システムのための基礎理論の構築	1,690	○	
機械工学科	教授	山田 貴延	エネルギー循環型バイオガス下水処理場への潜熱蓄熱システム導入の試み	3,900	○	
バイオ環境化学科	准教授	新井 博文	ハマナス花卉ポリフェノールによるアテローム性動脈硬化症予防作用	1,300	○	
共通講座	准教授	野田 由美意	抵抗か、順応か？——ナチスの芸術政策と「若きラインラント」	910	○	
情報システム工学科	准教授	渡辺 文彦	非有理的多様体上の超幾何型積分の研究	910	○	
マテリアル工学科	准教授	浪越 毅	らせんポリフェニルアセチレン膜の超高速光環化による超分子自立膜の創製と膜の機能化	2,600	○	
マテリアル工学科	教授	松田 剛	高表面積酸化モリブデンの表面改質によるコアシェル型モリブデン窒化物・炭化物の開発	1,950	○	
マテリアル工学科	教授	渡邊 眞次	テトラカルボン酸ジエステルの分散重合による全芳香族ポリイミド粒子の合成と機能化	1,170	○	
機械工学科	教授	柴野 純一	放射光白色X線による単結晶延性損傷評価法の開発	1,170	○	
機械工学科	准教授	林田 和宏	火炎内における酸化履歴が炭素質PMの排出濃度とナノ構造に及ぼす影響の解明	3,510	○	
社会環境工学科	准教授	中村 大	凍結融解を受ける河川堤防に適した堤体材料の選定法と締固め基準の提案	2,860	○	
マテリアル工学科	教授	阿部 良夫	水蒸気の直接噴射による水酸化物薄膜のスパッタ成膜プロセスの研究	2,860	○	
情報システム工学科	准教授	曾根 宏靖	太陽光を用いた省エネ型光通信システムの開発	2,210	○	

○挑戦の萌芽研究

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	助教	山崎 新太郎	津波をもたらした沿岸水域地すべりの搜索とその地すべり形態科学	0		○
電気電子工学科	准教授	橋本 泰成	ブレイン・マシン・インタフェース技術を応用した嗅覚評価方法の開発	650		○
社会環境工学科	教授	亀田 貴雄	斑点ぬれ雪の生成メカニズムの解明	1,300		○
社会環境工学科	研究員	松本 経	トビ追跡によるカラフトマス産卵場探査と産卵資源予測	2,730	○	

○若手研究 (A) 一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	助教	山崎 新太郎	雪上滑走型岩石なだれに関わる岩石と雪の相互作用の解明	8,710		○
バイオ環境化学科	准教授	小西 正朗	微生物由来界面活性物質の分子デザイン技術の高度化	650		○

○若手研究(B)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
情報システム工学科	准教授	蒲谷 祐一	指標多様体内の離散表現の形	650		○
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	寒冷地河川管理のための河水閉塞メカニズムを考慮した河水変動計算モデルの開発	910		○
情報システム工学科	助教	ブタシンスキ ミハウ	FeelHelper：被害者双方に着目したネットいじめ対策のための技術の開発	910		○
共通講座	准教授	春木 有亮	近現代フランス習慣論の美学的射程—「創造」と「飽き」	650		○
共通講座	准教授	戸澤 隆広	縮約関係節と比較節の統語論研究によるラベル決定の仕組みの解明	650		○
マテリアル工学科	准教授	大野 智也	多様な炭素資源からの水素製造を指向した次世代触媒の開発	2,080		○
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	コンクリート表面における亜硝酸イオンの溶出・浸透メカニズムと各種要因の影響	1,430		○
マテリアル工学科	助教	古瀬 裕章	高品質希土類添加透光性アルミナ多結晶体の開発と特性評価	1,690		○
電気電子工学科	助教	酒井 大輔	表面構造と内部屈折率分布により実現する新しい反射防止ガラスの創製	1,170		○
社会環境工学科	助教	富山 和也	生体疲労計測に基づく時間依存性を考慮した合理的な走行路面評価手法の開発	1,820		○
マテリアル工学科	助教	平井 慈人	金属空気電池に適用できる高性能な触媒材料の合成と触媒活性支配因子の探索	2,340	○	
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	水中音響通信方式における耐ドップラーシフト頑健性の研究	1,560	○	
社会環境工学科	助教	渡邊 達也	岩盤水分量の定量化手法の確立と寒冷地岩盤における水分挙動の解明	1,560	○	

○奨励研究

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
技術部	技術員	中西 喜美雄	バイオガスハイドレート不安定生成	520	○	

平成28年度共同研究の受入状況

平成28年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	雪氷状態モニタリング技術の開発	独立行政法人宇宙航空研究開発機構/ 株式会社センテナ
社会環境工学科	准教授	中村 大	積雪寒冷地における切土法面の凍上対策に関する研究	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	水中音響通信装置の実証検証	三菱電機特機システム株式会社
情報システム工学科	准教授	榊井 文人	カーリング競技の戦略シミュレータに関する研究	株式会社AIS北海道
共同研究推進センター	特任教授	大島 俊之	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度の実践運用のための共同研究	網走測量設計協会
機器分析センター	准教授	大津 直史	銀徐放性抗菌材料の開発	エビナ電化工業株式会社
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	スキーブーツのフットベッド用パーツの実用設計に関する研究	ブレイン株式会社
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	耐寒促進剤を用いたコンクリートの冬期施工に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	路面雪氷センシング技術の高度化に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
電気電子工学科	助教	酒井 大輔	UVナノインプリントを用いた次世代光学素子の開発	丸善石油化学株式会社/ 国立大学法人北海道大学
情報システム工学科	准教授	曾根 宏靖	ファイバレーザによる超広帯域光の発生に関する研究	国立研究開発法人産業技術総合研究所/ 国立大学法人茨城大学
社会環境工学科	准教授	中村 大	寒冷地における凍結深度の推定に対する地中レーダの有効性についての研究	越前屋鉄錐工業株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所
社会環境工学科	教授	川村 彰	帯状ガイドライトの視認性評価に関する調査研究	株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北
電気電子工学科	教授	柏 達也	市街地におけるMUSIC法を用いた到来波特性の研究	株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター
機械工学科	教授	大橋 鉄也	先端半導体デバイスにおける応力・転位解析とデバイスシミュレーションとの連携解析	学校法人五島育英会 東京都市大学
電気電子工学科	准教授	武山 眞弓	気相成長技術による薄膜作製の共同研究	気相成長株式会社
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	着氷モニタリングシステムの研究	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構/ 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
機械工学科	教授	山田 貴延	潜熱蓄熱によるローエクセルギー活用に関する研究（小型蓄熱層の研究）	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
社会連携推進センター	教授	有田 敏彦	ハイブリッド型看板装置の耐久性に関する研究	コスモスファクトリー
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	低温環境下における免震ゴムの性能評価試験	住友理工株式会社 化工品技術部
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	寒冷地における地山補強土工の適用性	日特建設株式会社
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	積雪寒冷地を対象とした冬期の取水障害の対策技術の開発	新明和工業株式会社
電気電子工学科	教授	柴田 浩行	超伝導体を用いた検出器の研究	日本電信電話株式会社 NTT物性科学基礎研究所
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市下水道事業
社会環境工学科	教授	川村 彰	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	北見市
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	網走市能取汚水処理施設における放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	網走市における下水汚泥および放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
社会環境工学科	教授	早川 博	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
バイオ環境化学科	准教授	新井 博文	常呂産ニンニク及び加工物の抗酸化活性に関する研究	日本製薬工業株式会社
マテリアル工学科	准教授	浪越 毅	シクロオレフィン系並びに芳香族系ビニルエーテルポリマーの研究	日本ゼオン株式会社
社会環境工学科	教授	早川 博	北見市環境調査研究（大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類）	北見市
社会環境工学科	教授	早川 博	北見市生物調査研究	北見市
マテリアル工学科	教授	村田 美樹	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町
機械工学科	准教授	林田 和宏	PCVガス除湿システム基礎研究 その4	株式会社ワーカム北海道

平成28年度累計35件

平成28年度受託研究の受入状況

平成28年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	氷海開発を支援するための高精度氷況観測技術の開発	国立研究開発法人海上技術安全研究所	円 0
機械工学科	教授	大橋 鉄也	疲労と破壊の科学/多種・多数界面とき裂の相互作用シミュレーション	国立研究開発法人科学技術振興機構	5,750,000
工学部	特任教授	鈴木 勉	農林産物由来の物質を用いた高性能・高環境性・低価格なナノ潤滑添加剤の開発	国立大学法人岡山大学	4,093,000
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	住宅用床下点検口蓋の多機能化に関する研究	ブレイン株式会社	0
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	Arcs 【「北極域研究推進プロジェクト」北極気候・気象・海洋環境変動研究分野】 「グリーンランドにおける氷床・氷河・海洋・環境変動」	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	4,050,000
社会環境工学科	助教	大野 浩	Arcs 【「北極域研究推進プロジェクト」北極気候・気象・海洋環境変動研究分野】 「北極気候に関わる大気物質」	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	3,810,000

平成28年度累計6件

平成28年度奨学寄附金の受入状況

平成28年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額
機械工学科	准教授	高井 和紀	躯体の掃気に関するシミュレーション解析等	ジェイベック株式会社	円 150,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	コンクリートの凍害とアルカリ骨材反応との複合劣化に関する資料収集	株式会社フジエンジニアリング	1,000,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁モニタリング技術の開発研究のため	株式会社フジエンジニアリング	500,000
	学長	高橋 信夫	父母懇談会及び就職支援等の事業を推進するため	北見工業大学学生後援会	1,500,000
バイオ環境化学科	特任助教	邱 泰瑛	発酵食品由来有用乳酸菌に関する教育研究の奨励助成	株式会社A0B慧央グループ	1,000,000
社会環境工学科	准教授 助教	井上 真澄 崔 希燮	工学研究助成	ドービー建設工業株式会社	250,000
社会環境工学科	教授	亀田 貴雄	雪氷学分野の研究奨励	株式会社清月	15,415
機械工学科	准教授	星野 洋平	農作物(南瓜)加工処理機械、収穫機の研究開発	佐呂間町農業協同組合	1,200,000
機械工学科	教授	柴野 純一	研究助成金	社会医療法人抱生会 丸の内病院	300,000
機器分析センター	准教授	大津 直史	銀徐放性抗菌材料の共同開発のため	エビナ電化工業株式会社	2,000,000
機械工学科	准教授	高井 和紀	住宅室内空気質の分析調査	特定非営利活動法人日本VOC測定協会	600,000
	特任教授	蓮實 文彦	工学研究助成の為	株式会社日幸製作所	1,000,000
社会環境工学科	助教	渡邊 達也	平成28年度「深田研究助成」助成交付金として (研究課題「地中レーダー探査による沖積錐層序の三次元復元」)	公益財団法人深田地質研究所	370,000
社会環境工学科	助教	川尻 峻三	河川の低水路および高水敷の地盤強度分布把握に 対する表面波探査技術の開発	株式会社開発工営社	1,000,000

平成28年度累計14件

北海道ガス(株)との包括連携協定締結について

(研究協力課)

4月7日(木)本学において、「国立大学法人北見工業大学と北海道ガス株式会社との包括的連携協定に関する調印式」を行いました。

現在、本学と北海道ガス株式会社は様々な場面で連携した取り組みを進めておりますが、より密接に協力しそれぞれが持つ資源を地域で発揮するとともに、産学間連携

を通じエネルギーと環境の最適化社会の実現と地域社会の発展ならびに持続可能な社会基盤の充実に貢献することを目的として、本協定を締結しました。

本協定書締結により、今後は連携が更に強固なものとなり、様々な交流が益々盛んになることを期待しています。



協定書への署名後に握手を交わす大槻社長(左)と高橋学長(右)

平成28年度技術セミナー（技術士養成支援講座）を開講

（研究協力課）

4月7日（木）北海道教育大学札幌駅前サテライトにおいて、平成28年度の技術セミナー（技術士養成支援講座）開講式を実施しました。

本講座は平成19年度から今年で10年間連続して開講しており、これまでに244人の方が受講し、28人の最終合格者を輩出しています。

札幌在住の本学出身技術士6名が講師となり、技術士の資格取得希望者を対象に受講者自らが学ぶ姿勢を重視しつつ、講義や添削指導により資格取得を支援するものです。

4月から7月までの開講期間に計4回の講義を予定し、開講時間も18時からと社会人

が受講しやすいよう設定しています。

本講座は、募集開始と同時に定員に達するなど人気の講座で、今年度17人の受講生の中には釧路から通われる方もおり、参加者の技術士資格取得に向けての意気込みが感じられます。

開講式当日は受講者15人が出席し、川村彰副学長からの開講挨拶に続き、講師及び受講者の自己紹介が行われました。

開講式後には、講師から受験にあたっての留意事項等ガイダンスに続き、講義が行われました。

今年度も受講生から多数の合格者が出ることを期待しています。



開講式で挨拶する川村副学長



受講者の自己紹介

北見市立中央図書館との連携

(情報図書課)

図書館では、4月11日から5月13日まで北見市立中央図書館と連携した企画展示を実施しました。

今回の展示は、本学のブック・プロジェクトの学生が今年2月に北見市立中央図書館で「中高生のためのオススメ本」をテーマに選書・展示した図書35冊を借り受け実施したものです。

北見市立中央図書館での展示にいけなかった方や、普段北見工大の図書館では見かけない図書に珍しさを覚えた方など、多くの利用者が足を止め展示を楽しまれています。

今後も企画展示など様々な機会を通じて北見市立図書館と連携していきます。



展示の様子

北見市産学官連携推進協議会総会

(社会連携推進センター)

4月26日(火)北見市産学官連携推進協議会の総会が開催されました。

本協議会は北見市、北見商工会議所、そして本学のトップが膝を交えて意見交換出来る場として、産業クラスター研究会オホーツクなどの活動を支援する目的で設置されました。会長は吉田孝理事が務めています。

総会では、本協議会の活動の一環である市内の中小企業と大学・公設試験研究機関との共同研究の推進として、日本赤十字北海道看護大学の根本昌宏教授及び北見工業技術センター運営協会の酒井寛史氏から事

例及び試作品の紹介を兼ねて報告がありました。

また今年度の調査・研究として、バイオ環境化学科小俣雅嗣助教の「再生可能エネルギーを利用した寒冷地域適応型植物工場に対する効率的養液使用法の構築」と、根本教授の「北見産食材を使用した冬期被災時にいのちを救う高カロリー非常食の研究開発」が共同研究として決定されました。例年に引き続き、本学との連携による産学官連携交流事業やセミナー等を企画しており、今後も地域の効果的な活動へ繋げていきたいと思ひます。



協議会総会の様子



共同研究を紹介する小俣助教

文献検索講習会を実施

(情報図書課)

図書館では、今年度も4月下旬より研究室単位や友人同士といった少人数を対象とした文献検索講習会を実施しています。

この講習会は、蔵書目録を利用した図書館資料の探し方を中心とした「入門編」、データベースを利用した論文の探し方を中心とした「データベース編」の2本立てで行なっています。

5月末の時点で「入門編」の講習会は7組

34名の学生が、「データベース編」の講習会については4組25名の学生が受講しました。

「入門編」の講習会は5月末で受付を終了しましたが、「データベース編」の講習会は、7月中旬まで受講申込みを受け付けています。

図書館では今後も学生の学修活動に役立つよう、文献検索講習会などの活動を充実させていきます。



入門編の様子



データベース編の様子

平成 28 年度構内美化作業を開始

(施 設 課)

毎年恒例となっている「構内美化作業」が5月9日(月)から開始しました。当日は晴天に恵まれ、絶好の作業日和となりました。高橋信夫学長からの挨拶の後に、約100名の参加者がそれぞれ所定の場所へ移動してゴミを拾いました。

この取り組みは10月下旬まで3週間に1回(夏季休暇期間を除く)昼休みを利用し

て学生・教職員が共同で構内及び周辺道路の清掃を実施するものです。今年度は昨年に比べてゴミが少なかったという声も聞かれ、20年以上続いているこの事業の効果を改めて認識することができました。今年度も美しいキャンパスを維持できるよう、残り5回実施する予定です。



美化作業開始の挨拶をする高橋学長



構内美化作業の様子

障がい学生支援に係る講演会を開催

(学務課学生支援室)

5月10日(火)にB211講義室において、富山大学教育・学生支援機構学生支援センター副センター長の西村優紀美氏を講師に迎え、「障がい学生支援に係る講演会」を開催しました。本講演会は4月1日の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行に伴い、障害を理由とする差別に関する基本的な事項、責務、役割及び障害特性の理解を促し、障がい学生等へ適切に対応するための意識啓発を目的に、教職員のFD・SD研修の一貫として企画され、100名余

りの教職員が参加しました。

講演では西村氏から、法律にいう「不当な差別的取扱い」や「合理的配慮の考え方」の他、発達障害について、個々の障がい特性に応じた富山大学における対応事例も踏まえながら、具体的で分かりやすくユーモラスな説明があり、参加した教職員からは本学の規模に見合った障がい学生支援体制の在り方やその中での教職員の役割を考える契機となったとの感想が多く寄せられました。



講演する西村氏

北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会を開催

(社会連携推進機構)

北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会が、5月20日（金）本学において開催されました。

本協議会は、本学の社会連携推進センター（以下、CRC）を中心として、オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究、研究交流、技術の指導・教育・開発などを推進することを目的として、北見市が運営している組織です。この目的を達成するために、CRCは毎年本協議会から、地域に貢献していくための貴重な活動資金をご支援いただいております。

総会には、永田正記協議会会長をはじめ地域産業団体から委員の方々が、公組織からは顧問の方々が、そして本学からは川村彰副学長、鈴木聡一郎社会連携推進センタ

一長ら関係者が出席し、平成27年度の事業・決算報告並びに平成28年度の事業計画・予算について審議されました。

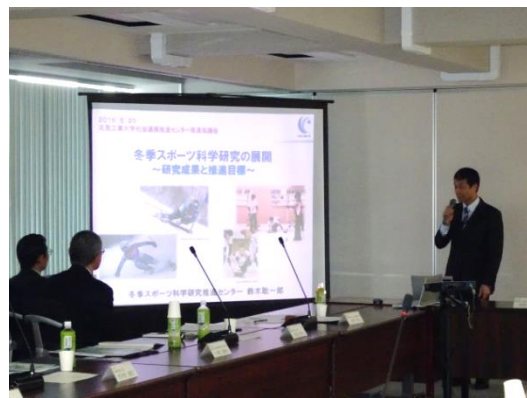
また本学の活動状況として、鈴木センター長から「冬季スポーツ科学研究の展開～研究成果と推進目標～」、有田敏彦教授から「遊休公施設活用による教育・研究・実践拠点の形成」について、それぞれ報告がありました。

委員からは本学への期待と励ましの言葉の他、大学の持つシーズを活用して地域のニーズに対する取組みについて今後も継続して欲しいとの要望がありました。

地域からのご支援・ご期待にしっかりと応えるべく決意を新たにされた総会でした。



協議会総会の様子



「冬季スポーツ科学研究推進センター」の研究活動を紹介する鈴木センター長

平成 28 年度第 1 回技術セミナー (建設コンサルタンツ協会 CPD 認定プログラム) を開催

(研究協力課)

平成28年度第1回技術セミナー(建設コンサルタンツ協会CPD認定プログラム)を5月21日(土)に第1総合研究棟多目的講義室で開催しました。

本セミナーは、地域貢献活動の一環として、土木・建設関係技術者に最新の技術動向及び建設コンサルタントを取り巻く状況等についての理解を深めてもらうために平成23年から実施しているもので、今年で6回目となる建設コンサルタンツ協会の認定講座です。受講者アンケートの要望に応え、今年度は複数回の開催を予定しており、初めて土曜日に開催しました。

セミナーでは、「これからの社会資本整備を考える I」をテーマに機械工学科の星野洋平准教授、社会環境工学科の中村大准教授、株式会社豊水設計の佐藤之信氏の3人の講師が講演しました。

セミナーには設計、測量、コンサルタント関係の技術者や北海道職員などオホーツク地域を中心に40人が参加しました。参加者は講師の説明に熱心に耳を傾けるとともに、土木建築関係者にとって身近なテーマであったことから活発な質問をしていました。



川村副学長の開会挨拶



受講の様子

= 日誌 =

4 月

- 5日 教授会、研究科委員会
- 6日 入学式、新入生ガイダンス（全体）
- 7日 北海道ガス（株）との包括的連携協定に関する調印式、新入生ガイダンス（系列）
- 13日 教育研究評議会
- 14日 経営協議会、役員会、学長選考会議
- 15日 発明審査委員会
- 18日 入学者選抜委員会
- 19日 地域連携・国際交流委員会、教務委員会
- 20日 企業経営者と語る会
- 21日 学生委員会
- 25日 就職支援室会議
- 27日 障がい学生支援室会議、入試企画センター運営会議

5 月

- 6日 編入学試験（推薦入試）出願受付（～12日）
- 9日 平成28年度構内美化作業を開始、入学者選抜委員会
- 10日 障がい学生支援に係る講演会
- 11日 研究推進機構統括会議、発明審査委員会、教務委員会
- 12日 高大連携連絡会議
- 13日 地域連携・国際交流委員会
- 17日 安全輸出管理委員会
- 18日 教育研究評議会
- 19日 学生委員会
- 20日 第1回就職ガイダンス
- 21日 平成28年度第1回技術セミナー（建設コンサルタツツ協会CPD認定プログラム）
- 23日 学力検査実施委員会
- 25日 編入学試験（推薦入試）面接試験
- 27日 インターンシップ説明会
- 31日 教務委員会、入学者選抜委員会